



第5回 千代川水系大規模氾濫時の減災対策協議会

取組状況



1. 逃げ遅れゼロに向けた迅速且つ的確な避難行動のための取組

(1) 平時からのリスク情報の周知に関する事項

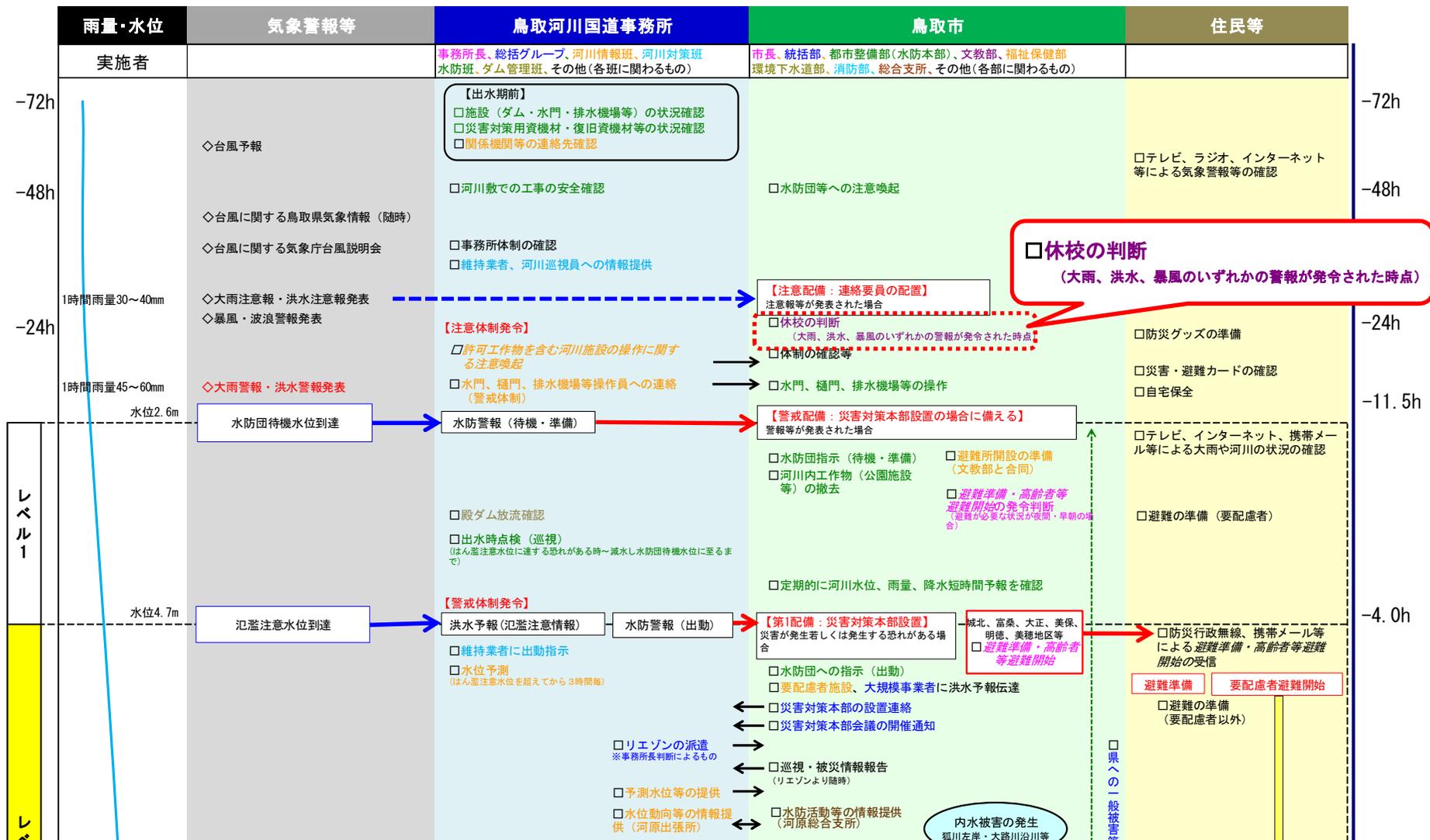
【実施項目】

- ⑥ 避難勧告の発令に着目したタイムラインの見直し
- ⑦ 住民、福祉施設入所者等の避難行動要支援者、道路・交通管理者、民間企業等と連携したタイムラインの見直し
- ⑧ タイムラインの時系列に基づく実践的な訓練の実施

避難勧告の発令に着目したタイムラインの見直し ⑥

台風の接近・上陸に伴う洪水を対象とした、直轄河川管理区間沿川の市町村の避難勧告の発令等に着目したタイムライン(防災行動計画) (案)【記録検用】

千代川
行徳水位観測所





1. 逃げ遅れゼロに向けた迅速且つ的確な 避難行動のための取組

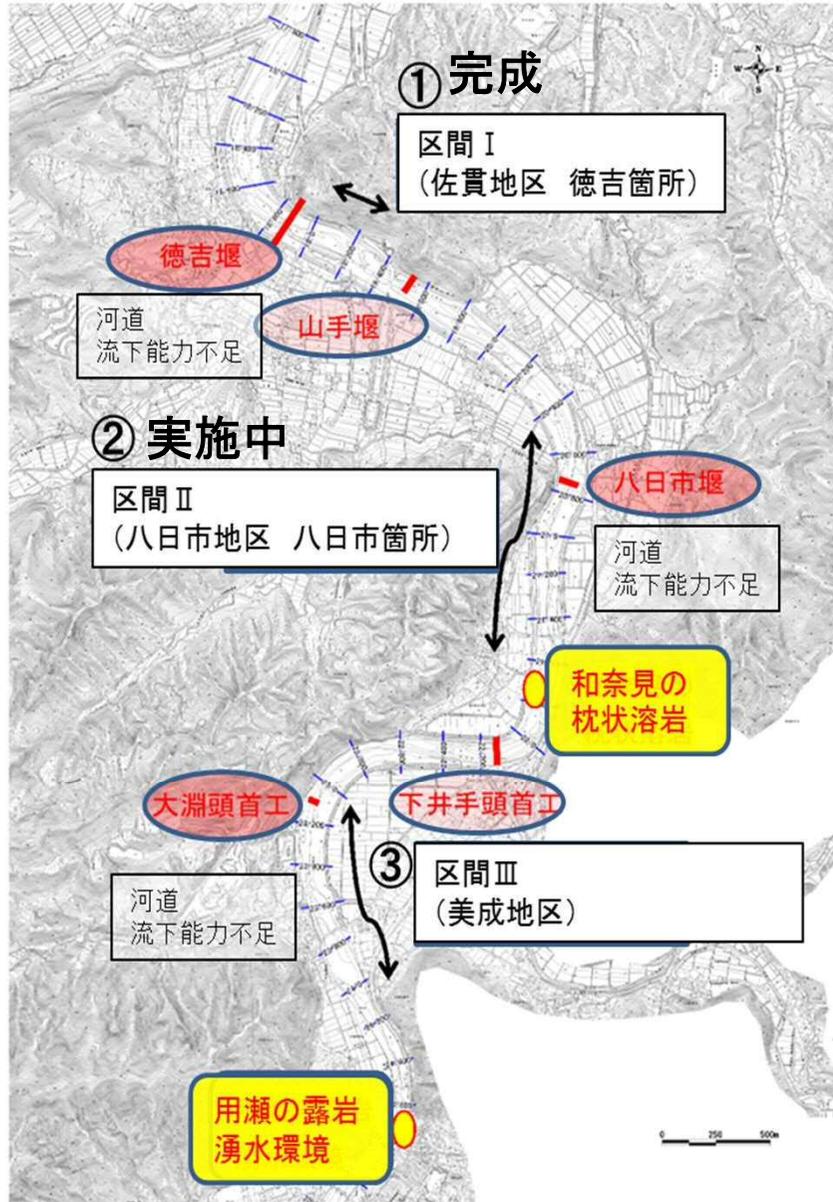
(2) 発災時の迅速かつ確実な避難に関 する事項

【実施項目】

- ⑪ 千代川本川において、堤防の浸透対策、パイピング対策を実施
- ⑫ 千代川本川上流域について、重点的に流下能力対策を推進
- ⑬ 千代川本川及び袋川において、堤防天端の保護を目的とした舗装を実施
- ⑭ 避難行動、水防活動に資する情報基盤の整備
- ⑮ 災害時に活動拠点となる施設の電源設備の耐水性の確保
- ⑯ 避難経路や水防活動の進入路となる道路、堤防管理用通路の浸水時の動線の確保

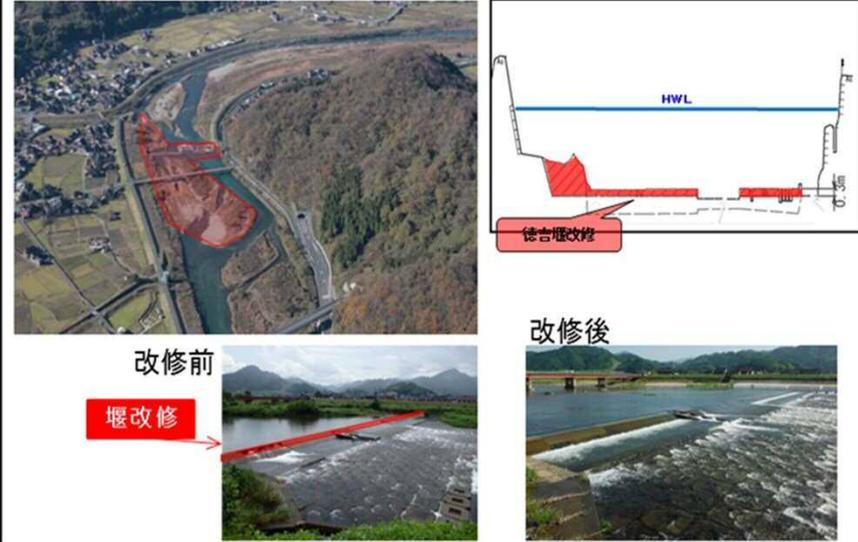
千代川本川上流域について、重点的に流下能力対策を推進 ⑫

上流地区整備



①徳吉箇所 (千代川18k900)
 (徳吉堰改修)

※H28年4月完了



②八日市箇所 (千代川20k800)
 (八日市堰改修)

整備内容

- ・堰の改修(移設)
- ・河床掘削



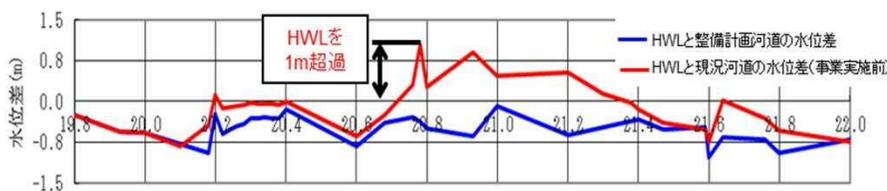
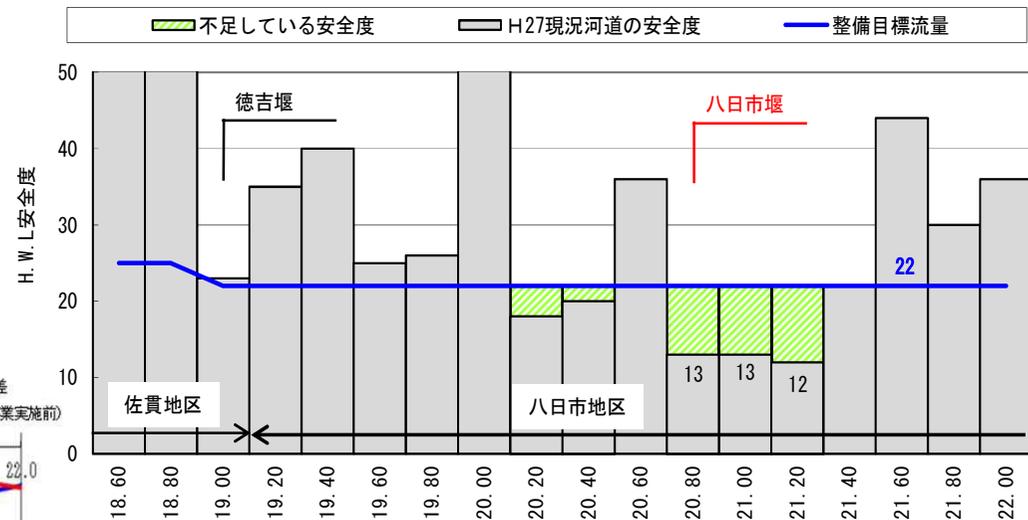
千代川本川上流域について、重点的に流下能力対策を推進 ⑫



【河床掘削・八日市堰改築】

- 佐貫地区・八日市地区では、固定堰による洪水時の水位のせき上げや堆積した土砂による河川断面不足が生じています。
- 平成26年度より、洪水に対する安全度を向上させるため佐貫地区の河川内に堆積した土砂の撤去を実施しており、平成29年度の八日市堰の改修工事（上流移設）により移設が完了しています。

各地点の治水安全度



- 平成26年度は堰上流付近に堆積している土砂等を撤去し、洪水に対する安全度を向上させました。
- 平成26年度の土砂撤去だけでは洪水に対する安全度を確保できないため、平成27年度以降も河床掘削を推進し、目標とする「戦後最大洪水である昭和54年10月洪水と同規模の洪水(当該箇所では概ね20年に1回程度の洪水)」に対する安全度を確保します。

■千代川本川及び袋川において、堤防天端の保護を目的とした舗装を実施 ⑬

【千代川天端舗装】

OH27年9月の関東・東北豪雨を契機として、新たに「水防災意識社会再構築ビジョン」として、全ての直轄河川とその沿川市町村において、平成32年度を目途に水防災意識社会を再構築する取組を行っています。

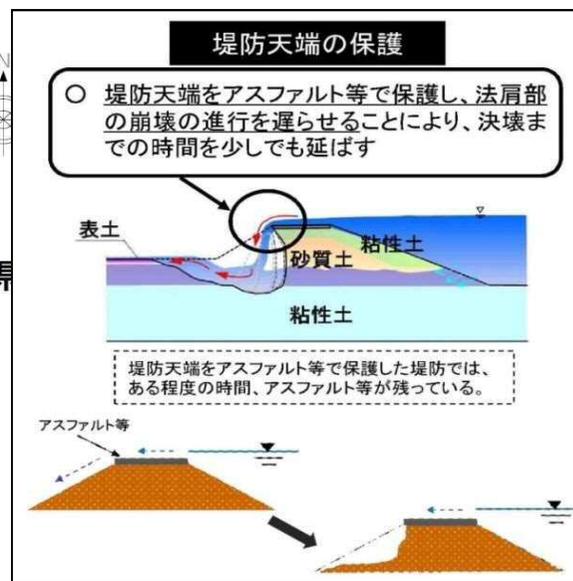
○千代川では洪水を安全に流すためのハード対策に加え、氾濫が発生した場合にも被害を軽減する「危機管理型ハード対策」を導入し、越水等が発生した場合でも決壊までの時間を少しでも引き延ばすよう堤防構造を工夫する対策（堤防の天端舗装）を完了しました。

危機管理型ハード対策 概要図 <千代川>



凡例
 天端の保護
 裏法尻の補強

実施区間延長 (重複無し)	内訳	
	天端の保護	裏法尻の補強
5.1km	5.1km	—



※実施箇所、実施延長は現地状況等により見直しを行う場合があります

- ※具体的実施箇所等については、今後の調査検討や、洪水被害の状況等によって変わる場合があります。
- ※危機管理型ハード対策と併せて、住民が自らリスクを察知し、自避難できるようなソフト対策を実施予定です。
- ※表示されている各対策の延長計については、四捨五入の関係でと合致しない場合があります。
- ※今後概ね5年間で対策を実施する区間を記載しています。



舗装前の堤防天端状況



舗装後の堤防天端状況

川管理区間

■ 避難行動、水防活動に資する情報基盤の整備 ⑭

【プッシュ型の洪水予報等の情報発信】

- 平成28年9月から、国が管理する2河川（関東：鬼怒川、四国：肱川）の沿河市町村において緊急速報メールを活用した洪水情報（※1）のプッシュ型配信（※2）に取り組んでいます。
- 平成29年5月から、千代川水系（鳥取市）においても、配信を開始しました。

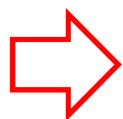
※1 「洪水情報」とは、洪水予報指定河川の氾濫危険情報（レベル4）及び氾濫発生情報（レベル5）の発表を契機として、住民の主体的な避難を促進するために配信する情報です。

※2 「プッシュ型配信」とは、受信者側が要求しなくても発信者側から情報が配信される仕組みです。



洪水情報のプッシュ型配信イメージ

※今回のメール配信は、携帯電話事業者が提供する「緊急速報メール」のサービスを活用して洪水情報を携帯電話ユーザーへ周知するものであり、洪水時に住民の主体的な避難を促進する取組みとして国土交通省が実施するものです。



鳥取市報(6月号)にて広報



2. 生命と財産を守る水防活動と日常生活を取り戻すための排水活動の強化の取り組み

(1) 日常生活を取り戻すための排水活動の強化に関する事項

【実施項目】

- ②9 大規模水害を想定した排水計画の作成
- ③0 排水ポンプ車出動要請の体制整備
- ③1 排水ポンプ車による排水訓練の実施
- ③3 排水施設の操作説明会の実施

大規模水害を想定した排水計画の作成 ②

アウトプットイメージ



排水ポンプ車等の待機場所・排水箇所までの進入ルート(写真・図面)



排水ポンプ車等の設置箇所(写真・図面)



【ホースブリッジ完成】
排水ホース上を車両が通行するための対策例
(ホースブリッジ)
(H26年8月豪雨(中国地整))



役場等の重要施設、上下水道等のインフラ施設の位置図



収集・整理した資料、検討結果をとりまとめ排水計画とする



3. 地域住民の防災意識向上と防災関係者の災害対応能力向上を目的とした防災件数の拡充の取り組み 生命と財産を守る水防活動と日常生活を取り戻すための排水活動の強化の取り組み

【実施項目】

- ③⑥ 小中学生等を対象とした水害(防災)教育の拡充
- ③⑦ 防災学習の指導内容に合わせた教材
- ③⑧ 学校教育関係者向け研修や講座等学習の場への参加
- ③⑨ 地域住民等を対象とした防災教育の実施

■小中学校等と連携した水害(防災)教育の拡充 ③⑥

1. 千代川を知ろう 千代川はどんな川(5) 千代川の流れのうつりかわり

- 大正15年～昭和6年(86年前)まで
：千代川下流部は、いまの袋川を流れていた
- 昭和3年～8年(84年前)まで：袋川を付け替えた
- 昭和9年～12年(80年前)まで：上流の河道を拡幅した

大正15年 隼水防備工事着手
昭和6年 旧河道跡

昭和5年 袋川付替工事着手
昭和8年 通水

昭和9年～12年 上流河道工事

16

1. 千代川を知ろう 千代川はどんな川(5) 千代川の流れのうつりかわり

- 昭和49年～58年(34年前)まで
：河口付近で曲がっていた千代川を、まっすぐに付け替えた
- 平成10年～13年(16年前)まで：大路川合流点を付け替えた

河口の付替え (S49～S58)

付替以前の河道

本川付替(隼水路) (T15～S6)

大路川合流点付替 (H10～H13)

袋川付替(新川開削) (S3～S8)

現在の河口 (H16.2撮影)

17

1. 千代川を知ろう 千代川はどんな川(5) 千代川の洪水

大正7年の洪水(台風)の状況

鳥取市大工町

鳥取市本町

昭和54年の洪水(台風)の状況

鳥取市用絆町

発生月日	降水量 (mm)	流量 (m ³ /S)	死者 (人)	浸水家数 (戸)
大正 7年 9月14日	290	6,400	30	13,186
大正12年 9月15日	398	5,700	2	11,023
昭和 9年 9月21日	304	3,200	11	7,529
昭和34年 9月26日	2,500	2	2	5,432
昭和38年 9月16日	211	2,700	2	351
昭和51年 9月10日	485	3,300	2	732
昭和54年10月19日	279	4,300	-	1,353
平成10年10月18日	164	3,800	-	185
平成16年 9月29日	202	3,200	-	99

18

1. 千代川を知ろう 千代川はどんな川(5) 千代川の洪水

昭和54年の洪水(台風)の状況

鳥取市用絆町

鳥取市用絆町

平成10年の洪水(台風)の状況

鳥取市用絆町

昭和54年の洪水(台風)の状況

鳥取市用絆町

19

